

令和 2 年度指定（グローバル型）

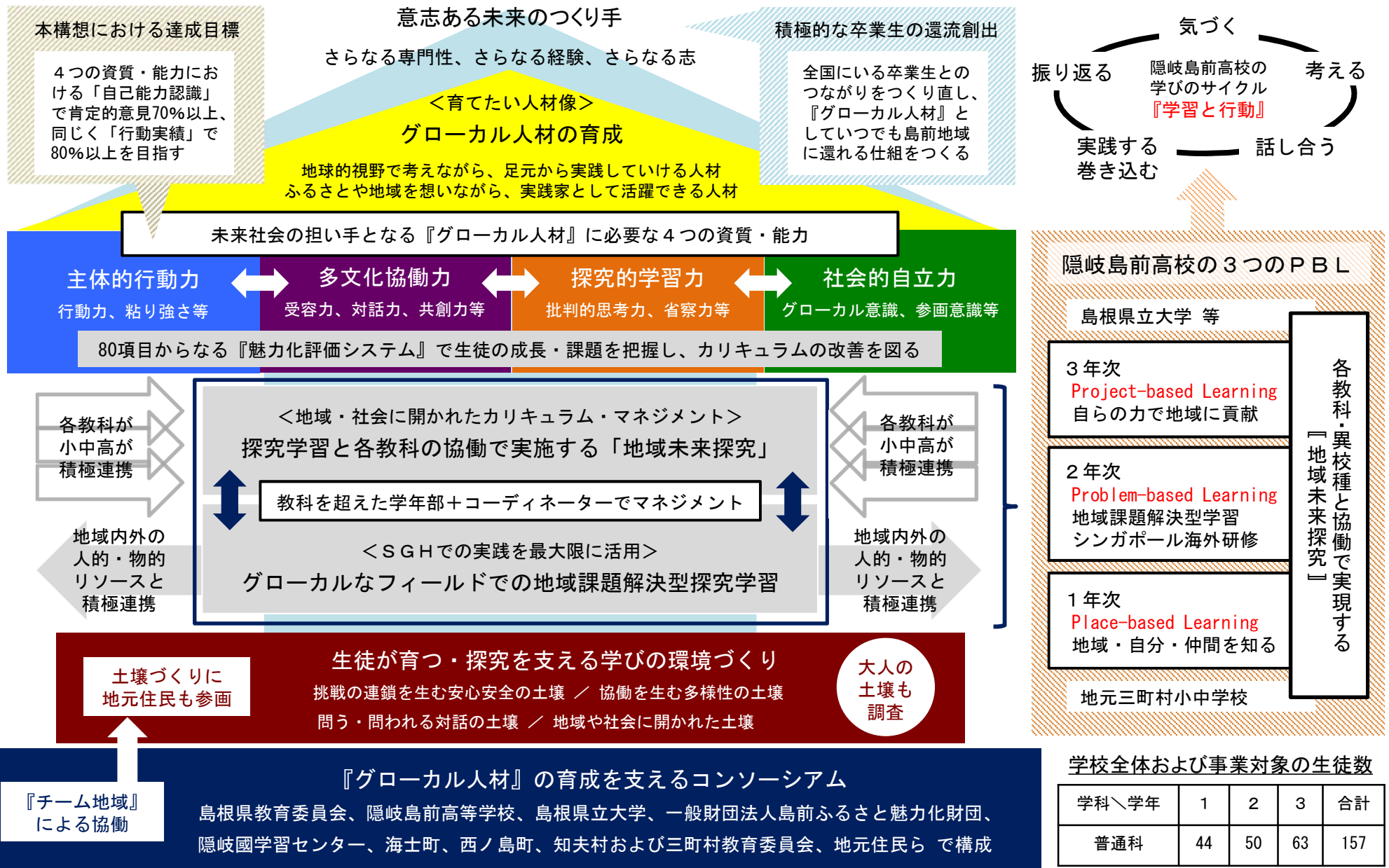
地域との協働による高等学校教育改革推進事業

令和 2 年度研究開発実施報告書 第 1 年次



島根県立隠岐島前高等学校

離島発「グローバル人材」育成のための「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の探究



目 次

構想概要

地域との協働による高等学校教育改革推進事業構想調書	2
---------------------------	---

研究開発実施報告

令和2年度研究開発計画および実施報告	9
研究開発計画1：グローバルに課題解決を実践するプロフェッショナルによる授業の実施	
研究開発計画2：国内外の課題解決実践地域との交流事業の実施	
研究開発計画3：地域課題解決型学習と各教科で取り組む「地域未来探究」の実施	
研究開発計画4：第1回「伴走者フォーラム」の実施	
研究開発に係る評価	

資料

資料	31
----	----

構想概要

地域との協働による高等学校教育改革推進事業構想調書

1 研究開発構想名

離島発「グローバル人材」を育成するための「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の探究

2 研究開発の目的・目標

(1) 目的

隠岐島前地域（西ノ島町、知夫村、海士町）に位置する本校がその特色を活かしながら目指すグローバル人材像は、「地球的視野で考えながら、足元から実践していける人材」であり、同時に「ふるさとや地域を思いながら、世界中で実践者として活躍できる人材」である。

本校ではこれを「グローバル人材」と定義し、グローバルセンスとローカルセンスの両方を持ち合わせた実践者として、地域そして世界の人々から「求められる人材、愛される人材」を育成することが本校の使命であると考えた。

本事業構想の第一の目的は、地域との協働により「地域・社会に開かれたカリキュラム」をつくることである。これまでも地域の諸課題をテーマとする「地域課題解決型探究学習」を実施し、シンガポールでの海外研修で成果発表をしてきた。今回はそういった探究学習と各教科をつなぎ、教育内容を相互の関係で捉える「地域未来探究」を構築する。

第二の目的は、チーム学校を超えたチーム地域で「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」に挑むことである。開かれたカリキュラムに必要な人的・物的リソースを、地域内外の叡智を結集して効果的に組み合わせながら活用できる体制を構築する。

(2) 達成目標

本事業構想終了時までには、達成目標として次の定量的目標と定性的目標を達成する。

①定量的目標

本校が目指すグローバル人材に必要な力は「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力である。卒業までに4つの資質・能力にどのような変化があるか、生徒の「自己能力認識」および「行動実績」を定量的に調査する。

具体的には80項目のアンケート調査を実施し、「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の「自己能力認識」で肯定的意見が70%以上となるよう、「行動実績」では肯定的意見が80%以上となるよう数値目標を設定する。

また、生徒が育つ環境を「安心・安全の土壌」「多様性の土壌」「対話の土壌」「開かれた土壌」と定義し、生徒および大人（コンソーシアム構成員および本校教職員）にアンケート調査を実施する。具体的には、各土壌における生徒の肯定的意見が80%以上となるよう、そして大人

の肯定的意見が 70%以上となるよう数値目標を設定する。そして、上記調査結果を基に地域との協働のあり方の検討や各教科の授業改善に役立てていく。

②定性的目標

生徒たちがチームで取り組む「地域課題解決型探究学習」において、生徒たちが考案し実践した内容が、実際に町役場をはじめとする現場で採用され、地域課題解決や地方創生のアイデアとして活用されることが望ましい。そのためには、生徒たち自身がチームで「気づく」→「考える」→「話し合う」→「実践する（巻き込む）」→「振り返る」→「（再び）気づく」というサイクルを何度も周回する必要がある。このサイクル自体の習得を目標としつつ、探究学習終了後に自らの言葉で探究学習の過程やサイクルについて語れることを目標とする。

サイクル周回の過程で教員側に求められることは、失敗への許容である。失敗をしないよう手助けをするのではなく、挑戦を奨励し、失敗を歓迎し、それでも生徒たちが安心・安全の場で「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力を存分に発揮できる環境を構築することを目標とする。

3 研究開発の概要

（1）研究開発の概要

これまで本校が実施してきた生徒らがチームで挑む「地域課題解決型探究学習」およびシンガポール海外研修での成果発表は継続して実施する。今回の研究開発では、そういった探究学習のプロセスと各教科をつなぎ、教育内容を相互の関係性で捉える「地域未来探究」を構築する。「地域未来探究」では、探究学習に合わせて各教科で島前地域とシンガポールとの比較研究を行うことなどを想定する。これまでも英語科のパフォーマンステストとシンガポールでの最終発表スライドを連携させるなどしてきたが、これを数学や地歴・公民等の複数教科で展開する。そのために必要なリソースを地域内外の叡智を結集して構築する「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」に挑戦する。

（2）地域との協働により実施する学習内容と教科・科目における位置付け、相互の関係

教科・科目としては、1年次には「夢探究Ⅰ」と「地域生活学Ⅰ」を、2年次には「地域生活学Ⅱ」を、3年次には「夢探究Ⅲ」・「地域地球学」等の総合的な探究の時間および学校設定科目を活用して実施する。1年次にはインターンシップも実施する。また、「地域課題解決型探究学習」における導入やメンター役は地域の方々の協力を得ながら実施する。

シンガポール海外研修に向けて、すべての教科で「地域未来探究」として、隠岐島前地域とシンガポールの比較研究等を行う。こうした高校生経験や学びを地域に循環させるため、地元小中学校との交流事業も「地域未来探究」と称して高校生との交流機会を設ける。

(3) 他校や他地域への事業成果の普及方策

これまで本校独自で実施してきた「地域・社会に開かれた探究学習成果発表会」は引き続き実施する。また、日常的な探究学習の取組や教科学習との連携は、広くウェブサイト等で周知する。毎年100名近い視察者が訪れる本校の特徴を活かして、視察者に対しても事業成果を広く周知する。

また、連携を念頭に置く地元三町村の小中学校との交流や、包括連携協定校である島根県立大学での大学生との交流等も検討する。また、探究学習における教職員の伴走を探究するため、「伴走者フォーラム（仮）」を実施する。

4 研究開発の仮説および期待される効果

「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の実現に向けて必要なのは、研究開発の概要でも記載した通り、各教科と探究学習のプロセスをつなぎ、教育内容を相互の関係性で捉えることである。「地域課題解決型探究学習」に取り組む中でも、探究学習と教科学習を別のものと分断して捉えている生徒もおり、カリキュラム・マネジメントにはまだまだ課題がある。これまで取り組んできた「地域課題解決型探究学習」は、他校に情報提供できるレベルに到達しつつあるが、教科学習とつなげて捉えるレベルには到達していない。生徒たちにはつながりを意識させることで、教室で学ぶことと地域活動で体験的に学ぶことの関連性を見出すなど「つなげて考える力・行動する力」を養うことができる。

5 研究開発の実施体制

(1) 管理機関の実施体制

第一に、「県立高校魅力化ビジョン」において、魅力ある高校づくりに学校と地域の協働体制（高校魅力化コンソーシアム）を全ての高校に構築することとしており、コンソーシアムおよび隠岐島前高校の運営に対する伴走者（管理機関の担当スタッフ）を配置するほか、コンソーシアム運営や教員の育成に係る研修等により取組を支援する。

第二に、運営指導委員会の開催により取組の指導・助言を行うとともに、事業の進捗管理を行う。

第三に、コンソーシアム運営支援事業（県単独事業）等による財政支援（申請に基づき最大760万円/校）を行う。

(2) 運営指導委員会の構成

運営指導委員会は、スーパーグローバルハイスクール事業の運営指導委員からの流れを汲みながら、新たに下記のメンバーで構成する。（次項参照）

氏名	所属・職	備考
藤井 千春 (運営指導委員長)	学校法人早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授	本構想全般および研究開発全般に係る指導・助言
山下 一也	公立大学法人島根県立大学 学長代行	地域との協働およびカリキュラムに係る指導・助言
市川 力	一般社団法人みつかる・わかる 代表理事	地域に根ざした探究学習のあり方に係る指導・助言
阿部 裕志	株式会社風と土と 代表 海士町商工会 青年部	地域産業との連携に係る指導・助言
チェルシー ゲイタ	フリーランス 米国出身/西ノ島在住	隠岐島前三町村連携および国際連携に係る指導・助言

(3) コンソーシアムの体制

コンソーシアムは、既にある「島根県立隠岐島前高校魅力化と永遠の発展の会」と「島根県立隠岐島前高校魅力化推進協議会」をベースに再構築し、地域との協働をはじめ、様々なステークホルダーとの協働を推進する。また、本校の「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」を深化・発展させることを念頭に人選を行う。コンソーシアムでは、年度始に当該年度の目標設定を共有し、年に6回程度の会議を設け、進捗状況を報告する。年度末には目標の結果や評価について共有し、次年度以降の指導・助言を受ける。コンソーシアムの構成メンバーは下記の通りである。

機関名	機関の代表者名	
島根県教育委員会	教育長	新田 英夫
島根県立隠岐島前高等学校	校長	井筒 秀明
公立大学法人島根県立大学	学長	清原 正義
一般財団法人 島前ふるさと魅力化財団	理事長	山内 道雄
隠岐国学習センター	センター長	豊田 庄吾
一般財団法人 地域・魅力化プラットフォーム	代表理事	水谷 智之
海士町	町長	大江 和彦
海士町教育委員会	教育長	平木 千秋
西ノ島町	町長	升谷 健
西ノ島町教育委員会	教育長	扇谷 就二
知夫村	村長	平木 伴佳
知夫村教育委員会	教育長	渡部 真也

(4) および地域協働学習実施支援員の配置

地域協働学習実施支援員として、校内に「コーディネーター」を4名配置し、地域課題解決型探究学習やカリキュラム開発に係る授業や打ち合わせに参画する。また授業に必要となる地域内外のリソースを学校と結び、「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」実現の一翼を担う。

また、海外交流アドバイザーとして、米国出身の「グローバルコーディネーター」を同じく校内に1名配置し、シンガポール海外研修やブータンやロシア、ミクロネシアへの「グローバル探究」における現地調整や交流事業全般を担う。

(5) 事業終了後の取組計画

事業終了に関わらず、さらなる地域との協働を目指し、コンソーシアムとの協働による地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント、コーディネーターとしての地域協働学習実施支援員やグローバルコーディネーターとしての海外交流アドバイザーは自主財源で継続する。

本校は離島という立地上、また地域との協働をベースに立ち上がった高校魅力化の発祥地として、今後の学校経営においても地域との協働は不可欠である。「グローバル人材の育成」はすでに地元町村にも浸透しており、「ふるさとや地域を思いながら、自らや地域の特性を活かし、世界中で実践家として活躍できる人材」の育成に引き続き邁進する。

(6) 国の指定終了後の事業経費計画

本構想は、これまで本校が実施してきた体制に基づいて企画しているため、指定終了後も事業は継続可能である。事業経費の資金調達については、今後地元三町村と連携して、ガバメント・クラウドファンディングやふるさと納税を活用するかたちで調達できるよう指定期間内に関係部局にはたらきかけていく。資金調達方法については、積極的に勉強会等に参加し、様々な知見を活用して、事業が永続的に継続できるよう鋭意努力する。

(7) 学校の実施体制

本構想の研究開発は、「地域協働推進チーム」を中心に「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」を目指す。卒業後の人材目標を共有しながら、総合的な探究の時間を中心とした教育課程を目指し、週に1度学年部の教員が全員参画で議論する時間を設ける。また、各学年部をつなぐ役割として、主幹教諭2名およびコーディネーター4名を配置し、学年横断的に連動・協働を促進する。探究学習における教員の役割を「伴走者」と位置づけ、教員の伴走についても探究し、成果発表を実施する。支援体制としては、「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」を実現するため専門家の指導・助言を受ける。

(8) 地域協働学習実施支援員の学校内における位置付け・役割、活用方法

地域協働学習実施支援員としてコーディネーターを4名配置する。コーディネーターの役割として

は、「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の実現に向けて、必要な「地域内リソース」と学校をつなぐことはもちろんのこと、地域外にしかない専門家や起業家、大学教授などの「地域外リソース」と学校をつなぐことを想定する。

また、海外研修における現地調整や交渉などグローバルな活用も想定し、コーディネーター4名のうち半数以上はTOEIC800点以上を条件とする。また、コーディネーターの1名を「学校経営補佐官」としても位置づけ、学校経営に係る伴走役としても活用する。

(9) 学校における外部有識者等の支援・活用体制

運営指導委員のメンバーである島根県立大学看護学部の山下一也教授には、本校が目指すグローバル人材に必要な資質・能力を共有しながら、地域との協働に係るフィールドワークや授業構成研究等について、年に1～2回来校いただき指導・助言を受ける。

同じく運営指導委員のメンバーでもある一般社団法人みつかる・わかる代表理事の市川力氏には、「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の実現に向けて、総合的な探究の時間と各教科の連携、地域との連携などについて月1回程度オンラインで会議を設け、全面的に指導・助言を受ける。

早稲田大学の平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)講師の平山雄大先生には、専門領域であるブータン王国と本校の共同探究における指導・助言はもちろんのこと、WAVOCが取り組む「体験の言語化」プログラムの本校での展開について指導・助言を受ける。

(10) 定期的な確認や成果の検証・評価等を通じた研究開発の進捗管理や改善の仕組み

生徒の成長に係る定期的な確認については、独自に作成した日々の活動におけるルーブリックや振り返りシート、e-ポートフォリオ等の活用を通して、生徒の状況を把握しながら授業改善を図っていく。

研究開発における検証・評価については、島根県と協働で開発した「地域・社会に開かれた教育を実現するため」の調査である「高校魅力化評価システム」を活用する。本評価システムは、本校が考えるグローバル人材に必要な力である「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力における生徒の「自己能力認識」および「行動実績」を測定するもので、本構想の検証および評価、その後の改善に活用する。

また教員側も、地域課題解決型探究学習において、どのように伴走するのが効果的かを探究する。探究成果については、広く全国に普及できるよう企画・実施する。

令和2年度研究開発計画および実施報告

令和2年度 研究開発実施計画書（抜粋）

1 研究開発名

離島発「グローバル人材」を育成するための「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の探究

2 令和2年度の研究開発実施計画

(1) グローバルに課題解決を実践するプロフェッショナルによる授業の実施

スーパーハイスクール事業でも実施してきたグローバルに課題解決を実践するプロフェッショナルによる授業を継続して実施する。プロフェッショナルたちのリーダーシップ、思考力や判断力、課題解決の創造性や粘り強さに触れるだけでなく、人間性や将来のグローバルなビジョンに触れることで生徒自らの現在地を探究する機会とする。

また、生徒が実際に取り組む地域課題解決についてもアドバイスをもらえるような仕組みを構築する。

(2) 国内外の課題解決実践地域との交流事業の実施

今年度は地域課題と地球規模の課題を「結び付けて」考えるべく積極的に外へ飛び出し、「他流試合」の機会を創出する。具体的にはロシアやブータン、シンガポールでの探究活動を実施する。また、「グローバル人材」を仮定して国内外での知見や事例をどのように地域に活用するのかについて探究する機会を創出する。

同様に、同世代との交流を通じ将来のビジョンなどに触れることで、多文化協働の基本姿勢や探究力、未知なる世界での主体性を高める契機とする。

(3) 地域課題解決型学習と各教科で取り組む「地域未来探究」の実施

総合的な探究の学習の時間と各教科をつないで実施する「地域未来探究」をまずは2～3教科から実施する。具体的には、2年次の海外研修の行き先であるシンガポールと隠岐島前地域の比較探究として実施する。授業構成等の検討は「地域に開かれたカリキュラム・マネジメント」を前提に、コーディネーターや地域住民等を巻き込んだ形で実施し、次年度以降は今年度の知見を元に全教科での展開を目指す。

これに伴い、今年度よりカリキュラム・マネジメントを担う主幹教諭1名を配置し、全体のカリキュラム・マネジメントを担うだけでなく、大学教授等専門家の知見を借りながらカリキュラム・マネジメントに係る教員研修を年に4～5回実施する。

(4) 第1回「伴走者フォーラム」の実施

他校や他地域への普及を目的に第1回「伴走者フォーラム」を実施する。ただし、あくまでも「事業成果の普及」ではなく、伴走者であり続けるための「問いの普及」を目指し、「地域・社会に開かれた教育課程」を構築するために教職員がどのようにあるべきなのか、生徒たちの探究活動にどのように伴走すべきのかななどを、大人たちがともに探究できる場を構築する。

研究開発計画 1 : グローカルに課題解決を実践するプロフェッショナルによる授業の実施

1. 仮説

グローバルやローカルなフィールドで実際に課題解決を実践するプロフェッショナルによる授業を受講することで、プロフェッショナルたちのリーダーシップ、思考力や判断力に触れることができる。また、自ら（のチーム）が設定する課題でプロフェッショナルたちの事例を用いながら目の前の課題解決に取り組むことで、地域起業家精神を醸成することができる。

また、地域課題と地球規模の課題を「結び付けて」考えるべく積極的に外へ飛び出し、「他流試合」の機会を創出することで、また、同様に、同世代との交流を通じ将来のビジョンなどに触れることで、多文化協働の基本姿勢や、物事の真理に迫る力、グローバルにビジョンを創造する力を高める。

2. 実践

今年度は下表の通りグローバルに課題解決に挑む講師を招聘して授業を実施した。

授業内の講話はもちろんのこと、講話後には様々な課題解決に取り組む生徒らから個別に質問する機会もいただいた。また、3月に実施した「探究学習成果発表会」には運営指導委員長の藤井先生やゲスト講師としてお越しいただいた市川力氏にもご参加いただき、探究学習に対するフィードバックやコメントをいただいた。

講話や授業はもちろんのこと、終了後には様々な課題解決に取り組む生徒らから個別に質問する機会をいただき、また、このうち何人かには最終成果発表会にもお越しいただき、解決策に対するフィードバックやコメントをいただいた。次ページ以降に抜粋して紹介する。

日程	講演者	所属	タイトル
5/20	青山敦士 氏	株式会社海士	海士町の観光におけるホテルリニューアルの意義と価値
6/10	野辺一寛 氏	隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会	隠岐観光におけるユネスコ世界ジオパークの意義と価値
7/15	市川力 氏	一般社団法人みつかる＋ わかる	フィールドワークのはじめかた
9/15	板脇美代子 氏 福間章仁 氏	町食生活改善推進協議会 町役場・観光定住課	西ノ島の食の魅力と課題
10/6	島根輝美 氏 村尾茂樹 氏	島のほけんしつ蔵 隠岐神社 禰宜	当時の後鳥羽上皇の暮らしとそのストレスについて
10/13	小山瑛司 氏	隠岐デジタルラボ	デジタルを活用した隠岐ならではの仕事とは

10/14	島田由香 氏	ユニリーバジャパン・ホールディングス株式会社	これからの「社会」や「働き方」はどのように変わるのか
	高智康 氏 吾郷均 氏	知夫村役場地域振興課	知夫村の移住促進に関する取組の現状と課題
10/22	小松倫世 氏 宮崎雅也 氏	カフェオーナー みやざきサービス	この島で仕事をつくること
11/10	草苺良和 氏 渡部貴志 氏	西ノ島町役場環境整備課	健康な生活を支える行政の仕事とは
11/12	川本息生 氏 坂本真衣 氏 宇野貴恵 氏	JA 隠岐どうぜん知夫支店 知夫小中学校栄養教諭 民宿但馬屋女将	島前地域の食の地産地消について
11/17	吉元操 氏 濱中香理 氏	海士町副町長 役場人づくり特命担当課	海士町の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の現状と課題
12/21	三浦大紀 氏	島根県浜田市議会議員	地域に貢献するとはどういうことか
1/26	井尻晃 氏	知夫村役場産業振興課	知夫村のゴミ処理の課題
3/16	ムラー和代 氏	海士町教育委員会	海士町での子育て支援
3/18	坂野晶 氏	一般社団法人ゼロ・ウェイスト・ジャパン	ごみ処理の課題と展望

1 ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス株式会社 島田由香氏による講演会 (2020. 10. 14)



(1) 概要

ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス株式会社 人事総務本部長を務める島田由香氏をオンラインゲストに「これからの「社会」や「働き方」はどのように変わるのか」というタイトルで講演会を実施した。

島田さんはコロナ禍で2月から出社せず、すべて自宅でオンラインを駆使しながら働かれていることを引き合いに、「ワーケーション」という概念が今後キーワードになるとお話しいただいた。会社での自己実現を目指すだけでなく、自然の中においてのびのびと生産性高く働くことができれば、会社にとっても個人にとっても幸せなことであるとお話しいただき、今後の社会が変わっていく方向性を確認することができた。また、本校生徒たちにとっては日々の環境のすばらしさに気づくいい機会にもなった。他にも島田さんの経験から、「成功している人の条件」について、「自分らしくあること」「強みを使う」「growth mindset を選ぶ」「自分を信じる」そして「幸せである」ことを挙げられました。

(2) 研究開発との関連性

グローバル人材に必要な力	要素	関連
主体的行動力	行動力、粘り強さ等	○
多文化協働力	受容力、対話力、共創力等	◎
探究的学習力	批判的思考力、省察力等	
社会的自立力	グローバル意識、社会参画意識	○

2 島根県浜田市議会議員 三浦大紀氏による講演会（2020. 12. 21）



（1）概要

浜田市議として活躍されている三浦大紀さんを招いて1年生向けにキャリア講演会を実施した。この日の題目は「地域で働くことの意義とは何か、地域に貢献するとはどういうことか、そして地域社会に貢献することが人生をどのように変えたか」。ご本人の高校生時代まで遡って様々なご経験を元にお話しいただいた。なかでも橋本龍太郎元首相の議員秘書時代のお話や、国際NGOの職員としてフィリピンに関わったお話し、地元である浜田市に戻ってからの地域活性化事業など、ローカルとグローバルの双方の視点から有意義なお話をしていただいた。「人生を〇〇な風に過ごしたいからまちに関わる（自分のやりたいことができるようにまちづくりに関わっていく）」という言葉が印象的で、地域課題解決に目を向けがちな生徒たちに新たな視点をいただいた。

また、まちに関わることそのものを「関わることを、おもしろく」と捉え、政治家としての活動に結び付けていった行動が生徒らの共感を生み、「何事にも楽しんですることによって成功したり長く続いたりするんだと思った」、「一人一人が『関わりたい』と思える地域づくりを考えてみたい」といった感想が寄せられた。

（2）研究開発との関連性

グローバル人材に必要な力	要素	関連
主体的行動力	行動力、粘り強さ等	◎
多文化協働力	受容力、対話力、共創力等	○
探究的学習力	批判的思考力、省察力等	
社会的自立力	グローバル意識、社会参画意識	○

研究開発計画 2：国内外の課題解決実践地域との交流事業の実施

1. 仮説

本校の課題解決型探究学習は、居住地域である隠岐島前地域について扱うことがあるが、これだけではグローバルな視点や視座の移動は見込めない。そこで、国内外の課題解決実践地域との交流事業を実施することで、自然と地域外にも目や耳を向け、それが循環するかたちで隠岐島前地域に資することができる。

また、近隣に高校がひとつしかない現状は、多文化協働力を上げる上でデメリットになる。実際に課題解決に向かう同世代や行動し続けている大人との交流を通して刺激を受け、自らの協働力や探究力を高める機会とすることができる。

2. 実践

本来であれば、シンガポールやブータン、ロシア、ミクロネシアとグローバルに触れ、その上でローカルとの比較をするなど、グローバルに往還することが本類型へのひとつの挑戦であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、大幅に計画を変更せざるを得ず、予定していた活動をすることはできなかった。

2学年が全員で行くシンガポール海外研修の代替として、大分県の立命館アジア太平洋大学を訪問する案も検討したが、緊急事態宣言下での移動を回避すべく、隠岐島前三町村内でグローバルに触れるプログラムと変更した。グローバルとローカルを物理的な越境なくどのように越境体験を持つのかは新たな挑戦となった。プログラム内容やスケジュールは下記の通りで、結果的には、普段居住しながらもなかなか探究しきれない隠岐島前ローカルにどっぷり浸りつつ、一方でグローバルを体感することで、シンガポールに行った時と同じような「越境体験」を構築することができた。

なお、本来実施しようとして計画していたものは下記の通りである。次ページ以降では、シンガポール海外研修の代替と実施した「隠岐島前地域でのグローバル研修」について記載する。

期間	国・地域	探究・交流内容
7月-8月	ロシア連邦 (グローバル探究)	『世界の子どもたち』プログラム
7月-8月	ブータン王国 (グローバル探究)	島前地域とブータン王国の共通点と相違点の探究
7月-8月	ミクロネシア連邦 (グローバル探究)	島前地域とミクロネシア連邦の共通点と相違点の探究
11/12- 11/16	シンガポール海外研修	大学での英語プレゼン、グローバル企業で働く社会人へのインタビュー

1 シンガポール海外研修代替研修としての隠岐島前研修 (2021. 2. 2~5)



※英語プレゼンテーションの資料は最終ページに掲載

(1) 旅程

令和3年2月2日～2月5日 3泊4日

日程	ねらい	活動
2/2	アイスブレイク 研修旅行の目的を踏まえた4日間過ごす上での、問いを持ち、仮説を立てる	<午前：アイスブレイク> (1) 身体を動かす (2) チームの協働性を高める昼食づくり <午後：導入プログラム> (1) 全体オリエンテーション (2) レゴワークショップ 「自分らしさ」とは？ 「いい学年」とは？ 「島前地域らしさ」とは？
2/3	グローバルの視点から、これまでの探究活動や自分自身を見つめ直す	<午前：英語プレゼンテーション> (1) オンラインコメンテーター シンガポール国立大学の外国人学生 10名 立命館アジア太平洋大学の外国人留学生 20名 島根大学の外国人留学生 5名 (2) 対面コメンテーター 島内在住の ALT 5名 <午後：ゲスト講演会> (1) オンライン 岡田武史 氏（元サッカー日本代表監督） 岩澤美保 氏（Google 合同会社マネージャー） 税所篤快 氏（NPO 法人 e-Education 創業者）
2/4	隠岐島前ローカルの魅力を再発見し、五感で味わう	<終日：体験プログラム> (1) 神楽（知夫村）：歴史を知る、観る、体験、披露する (2) 燻製（海士町）：ふくぎ茶を燻す、味わう (3) 海の幸（西ノ島町）：捌く、食す
2/5	振り返り、まとめ、今後につなげる	<午前：振り返り> (1) 4日間で印象に残った体験・シーンを振り返る (2) 初日に作成したレゴをもとに気づきや、変化を振り返る (3) 探究活動全体をチームで振り返り、互いにフィードバックし合い、活動をしめくくる。

(2) 目的

シンガポール海外研修の本来の目的は、同じ島でありながら真逆の経済発展を目指すシンガポールを訪問することで、真に「グローバルとは何か」を考える契機とすることであった。また、1年次から取り組んできた島前地域の課題解決型学習について、実践結果の報告をする場とし、その内容を英語でまとめ、外国人相手にプレゼンテーションをすることを目的としていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実現するに至らなかった。しかしながら、隠岐島前地域に残りながらも宿泊型の研修を実施し、どっぷりとローカルに浸かりながら、外国人相手にオンラインで英語プレゼンテーションをし、グローバルに活躍する方々をゲストにお招きすることで、隠岐島前地域に居ながらにしてグローバルを往還することを目的と据えた。

(3) 概要

1. 研修の目的を捉え直すワークショップ

今回の研修旅行は生徒らの望むかたちでの実施とならなかったことから、モチベーションが上がりきれない生徒も見受けられた。望まないかたちでスタートした研修ではあったが、目的を今一度捉え直すことで意識を高め、それらが達成できるよう全員で考え、発表する時間を冒頭に設けた。

まずは身体を活用し、誰もがかかわりしるを持つ必要のある、ランチの考案と地元食材を調達から考える調理実習とした。調理場としては、密を避けるために高校の調理室のみならず、近隣の公民館をお借りし、実現するに至った。

その後、隠岐国学習センターに移動し、センター長である豊田庄吾氏によるレゴを活用したワークショップを実施した。レゴを活用したワークショップは手をつかって作り上げ、それを振り返ってどのように感じているのかを表現、共有するもので、本来なかなか自身の言葉で言い表せない生徒でも表現しやすく、研修の目的の捉え直しや自分らしさ、そして学年全体のチーム感を考えるいい機会となった。

2. 外国人留学生への英語プレゼンテーション

協働的探究学習の授業を通じて取り組んできた「島前の地域課題解決」「島前の魅力再発見」について、その背景や調査結果、解決策の実践結果を英語でプレゼンテーションする機会を設けた。プレゼンテーションをする相手はシンガポール海外研修での実施している外国人留学生をターゲットとし、実際に現地 National University of Singapore の大学生や立命館アジア太平洋大学の外国人留学生、地元島根大学の外国人留学生など、様々な国・地域からオンラインでつないでいただき、例年以上に様々な視点から豊かなフィードバックをいただく時間となった。

生徒たちは、この日の発表や、その後の地域での成果発表会に向けて、地域課題について調査を実施した上で解決策を考案し、解決を図りながらその実践結果をまとめつつ、英語でのプレゼンテーションの準備をしてきた。多忙なスケジュールではあったが、全てのグループが無事にプレゼンテーションを実施することができた。

今年度も英語科と連携・協働したプレゼンテーション練習をより充実させ、1学期から長期的に英語発表を意識することができた。また、教材は引き続き昨年度の生徒らが作成したプレゼンテーションやスクリプトを用い、複数回のパフォーマンステストを行い英語科の評価にも反映させた。実際の英語プレゼンテーションにおける言い回しやデリバリーの観点に関して、英語の授業を通して触れることができたため、後に英語原稿を作成する際などに役立った。また情報科とも連携することで、プレゼンテーションの構成などについても学習をした上で、資料作成を行った。

実際のプレゼンテーションでは、日本に居住する外国人留学生としての視点や、日本を訪れたことのない海外在住の外国人大学生からの広い視野や多彩な経験に基づいてコメントが寄せられ、課題や解決策に対する質問やアドバイスが寄せられた。地域の特性や日本語特有の言い回しについても配慮しながら、スライドや原稿を作成したが、その上でも現地大学生にはストレートに伝わらない部分があったことは、両者の文化的背景の違いや、配慮の視点を学ぶ上でよい機会になった。英語での質問についても、事前の想定以外の質問や、聞き取りづらい英語に苦戦していたが、チームメンバーで相談して、即興の演劇などを交えながら必死に英語で答えようとする姿が見られた。



実際のプレゼンテーションの内容は下記の通り。

発表メンバー	発表テーマ
田谷、應手、島根、SAKI	外来種クズを活用したアロマオイルの精油と商品開発
小庭、小前、末田、公受	知夫村でのレンタサイクル導入
大嶋、黒田、澤井、森岡	竹林の活用と商品開発
能海、横田、古藤、安田	Instagram を活用した高校の PR
長見、市川、元吉、吉田	西ノ島町のカフェ TAKUHI のスペース活用
矢谷、鈴木、綿谷	海岸清掃と SDGs
藤井、松本、和田	島内小中学生と隠岐島前高校のつながりをつくる
亀谷、佐藤、田中	隠岐汽船への読書スペース導入の提案
菊池、町田、中尾、濱田	コンポストとキャップアートでごみ問題を解決する
芋生、綿谷、新井、柴田	知夫での地域交流を考える
高橋、番谷、松本、山田	海士町農村公園の魅力化

3. ゲスト講演会

シンガポールでは、現地日本法人で働いているグローバルに活躍する方々を訪問し、生徒達がインタビューを行ってきた。「グローバル人材の育成」を目指す本校では、地域特性を活用しながらローカルでの活動については取り組みが進んでいる。一方で、グローバルに活躍する人材や、世界で活躍する社会人と接する機会を構築するためである。

今回、シンガポール訪問時と同様にグローバルに活躍をしてきた3名のゲストにオンラインで登場いただき、実際に活躍する社会人と交流する機会を設けることができた。

ゲストの一人目はバングラデシュでの通信教育事業を立ち上げ、未承認国家であるソマリランドなどでも教育分野で世界的に貢献した税所篤快さんにご登場いただいた。二人目には、日本の小さな地域出身でありながら、ニューバランスや Facebook などのグローバル企業で活躍されている岩澤美保さんにご登場いただいた。そして、三人目として元サッカー日本代表監督で二度のワールドカップを経験した岡田武史監督にご登場いただいた。ゲストについては、それぞれ事前に下調べをした上で、お話を伺い、生徒たちとの対話形式で進むようご配慮いただいた。

普段なかなかお話しすることのできないゲストの皆さんとの対話で、思わず自分自身のことを吐露してしまう生徒や涙する生徒もあり、非常に充実した時間となった。

4. ローカル体験プログラム

ローカル体験プログラムでは、(1) 知夫村で神楽を学び、披露すること、(2) 西ノ島町で漁業の水揚げ後の仕分けやイカ捌きをし、食べること、(3) 海士町では福祉施設でつくられている「福来茶」を共につくり、味わうことの3つに分かれて実施した。

地元出身者であっても実際の水揚げの現場に入って働いたことはなく、島留学生にとっても非常によい経験となった。



神楽を学び披露したチームは、島前神楽が長い歴史の中でどのように変遷していったのか、現在は担い手の問題としてどのようなことが挙げられるのか、神楽を舞う際の意識の向け方など様々な観点からお話しをしていただいた。生徒たちの満足度も非常に高かったが、何よりも教えてくれる大人たちの満足気な表情が印象的であった。とくに神楽や水揚げ現場などに高校生が来ることは少なく、「こうして興味関心を持ってもらえるだけでもありがたい」とおっしゃっていただき、生徒らにとっても体感的に島に貢献できたことが非常によかったと考えられる。ご協力いただいた島の皆様には改めて感謝したい。

(4) 研究開発との関連性

グローバル人材に必要な力	要素	関連
主体的行動力	行動力、粘り強さ等	◎
多文化協働力	受容力、対話力、共創力等	◎
探究的学習力	批判的思考力、省察力等	◎
社会的自立力	グローバル意識、社会参画意識	◎

研究開発計画3：地域課題解決型学習と各教科で取り組む「地域未来探究」の実施

1. 仮説

地域課題解決型学習と教科学習にどのようにブリッジをかけるかはスーパーグローバルハイスクール事業での評価にも示された通りである。本事業では「地域未来探究」と称して総合的な学習の時間と教科学習を「クロスカリキュラム」のようなかたちで設計することで、生徒たちにブリッジを意識させることができる。

また、日常的にコミュニケーションが少ない教科間コミュニケーションの契機となることや若い教員や講師の多い本校の特性を捉えた人材育成やOJTの機会とすることができる。

2. 実践

当初の計画通り、カリキュラムマネジメントを担当する主幹教諭を配置し、教員研修も複数回実施した。SGH以降、今年度の新たな取組としては、「地域未来探究」の枠組みを構築し、複数科目および地元小中学校と連携して実施することができた。

中でも、総合的な探究の時間と各教科横断で実施した「地域未来探究」では、古典と保健体育が教科連携し「後鳥羽上皇のストレス」を探究する時間を設けることができた。教科連携だけでなく、隠岐神社禰宜や島で働くセラピストを交え、当時と現在のストレスのあり方の変化についても学ぶ機会とした。生徒たちは後鳥羽上皇の和歌に触れるだけでなく、そこから透けて見えるストレスを見出し発表するなど、教員チームも手応えを得た。地元の小中学校と連携して試行した「地域未来探究」では、知夫村の中学校に本校生徒が複数回訪問し、中学生の「総合的な学習の時間」にメンターとして伴走した。高校生たちは自らの探究活動での経験を活かしアドバイスするだけでなく、中学生から学ぶシーンもいくつかあり、こちらも次年度に向けての手応えを得た。

これらの教科連携・教科横断にコーディネーターや地域の方々にも入っていただき、研究開発として掲げている「地域に開かれたカリキュラムマネジメント」の試行にも着手することができた。先に挙げた後鳥羽上皇とストレスの事例以外には、保健体育と現代社会の連携による「海士町における新型コロナウイルス感染症対策」という単元を設け、海士町から副町長や担当課長に教室にお越しいただいた。

他にも英語の「和食」の単元と理科の発酵をベースに地元・西ノ島町の食生活改善推進委員と協働し、実際に郷土料理のベースとなる味噌の魅力と消えゆく郷土料理の課題について学ぶ時間を設けることができた。

いずれの事例も、教科書があるわけではなく、教員とコーディネーターの発想と地元とのコネクションから生み出された授業で、何よりも教員チームの探究からスタートするところが（大変ではあったものの）有意義であった。先に挙げた英語と理科の事例でも互いの教科書を見る機会はほとんどなく、総合的な探究の時間が間に入ることの効果を得た。

1 地域課題をテーマに複数教科横断型で行う「地域未来探究」の実施（2020. 9. 24）



（1）概要

教科横断型の授業設計を意識した上で、英語科と理科の教員・コーディネーターの三者で協働し、英語で取り上げていた「和食」を取り上げ「発酵による西ノ島の郷土料理」という題目で地域未来探究を実施した。ねらいは、隠岐島前地域を題材に、様々な教科の観点を混ぜて横断的に学んでいくこと。

全3回のうち初回は、資料として西ノ島の歴史掲載された「町誌」や、西ノ島町民の健康向上のための行政文書、西ノ島の食材が取り上げられた漫画「美味しんぼ」など様々な素材を通じて、西ノ島の食とはどのようなもので、今どのような状況であるのかに触れ、自ら問いを立てた。

第2回目は、自ら立てた問いをゲストにぶつけ検証するための時間とした。ゲストには西ノ島町食生活改善推進協議会会長の板脇氏と、西ノ島町役場・観光定住課課長の福間氏のお二人にお越しいただいた。生徒からは郷土料理や食に関する幅広い視点の問いが寄せられた。

そして3回目として、西ノ島の食の「魅力」と「課題」が何かを考え、最後に「西ノ島の食を応援するために、自分（たち）にできることは？」というテーマでディスカッションを行い、それぞれの考えを共有した。

（2）研究開発との関連性

グローバル人材に必要な力	要素	関連
主体的行動力	行動力、粘り強さ等	○
多文化協働力	受容力、対話力、共創力等	◎
探究的学習力	批判的思考力、省察力等	
社会的自立力	グローバル意識、社会参画意識	○

研究開発計画4：第1回「伴走者フォーラム」の実施

1. 仮説

事業の成果を発表するのではなく、生徒の探究活動に伴走する大人の挑戦事例や失敗事例を積極的に共有することで全国の挑戦者や挑戦校を増やすことができ、結果的に公教育のアップデートに資することができる。

2. 実践

今年度は「成果の普及」の位置付けで「第1回伴走者フォーラム」を実施した。計画書の通り、成功事例の共有ではなく、「学習者を中心にどのように伴走すべきか」の問いを共有し、参加者で学び合う形式とした。

12月12日はウェビナー形式とし、「コーチのコーチ」と称される元ラグビーU20日本代表監督の中竹竜二氏をゲストに迎え、総勢90名が参加した。中竹氏には伴走の手法、チームのつくりかた、目標の掲げ方など一流のスポーツ選手と現役の経営者としての実践知が混ざり合う場となり、参加者の満足度も高かった。

12月17日は中竹氏のウェビナーを元に約40名が参加し、現場での困りごとやカリキュラムを構築する上での悩み相談など、現場に寄り添うかたちで実施した。本校教員をはじめ日本全国から教育関係者が集い、なかでも東京の大島や広島県の中山間地の教員にも参加いただき、貴重な意見交換の場となった。

また、同じく生徒たちの1年間の学びを普及する場として、「探究学習成果発表会」を3月に実施した。チーム部門では、2年生の探究活動チームから3チームが発表（日本語発表が2チーム、英語発表が1チーム）し、個人部門では、1年生2名が探究学習で学んだことがどのように地域活動に活用できたかなどについて発表があった。また、個人部門に参加した3年生（ブータン出身）は、3年間を通していかにグローバルに学んだか、その上でいま自分の中にある「夢」についての発表があった。講評者として、運営指導委員長を勤めてくださっている早稲田大学の藤井千春教授や、同じく運営指導委員でありながら地元企業を運営されている阿部裕志氏、本校の授業改善研修を担ってくださっている岡山大学の宮本浩治准教授、本校学校経営補佐官の水谷智之氏にご出席いただき、生徒たちに質問やコメント、フィードバックなどをいただいた。

研究開発に係る評価

1. 生徒および教職員含む大人へのアンケート調査

初年度の開発計画に掲げた「外部人材の指導・助言を得ながら地域課題解決型探究学習とのつながりを2～3教科で実施し、2年目の全教科展開に向けてPDCAサイクルを回す」については上記の通り概ね達成できたと言える。

一方で、グローバル型で本校が目指していた「グローバルとローカルの往還」については新型コロナウイルス感染症の影響で（オンライン以外で）グローバル要素を取り入れ事業を推進することができなかった。

また、目標設定の到達度としては下記の通りとなった。

		主体性	協働性	探究性	社会性
高校としての	生徒の自己認識	64.6%	78.0%	63.1%	69.0%
活動指標	行動実績	76.4%	75.0%	67.5%	69.2%

「生徒の自己認識」については、すべての項目で70%以上となること目指していたが、協働性では上回ったものの、主体性と探究性では目標に及ばなかった。協働性の個別項目を見てみると、「自分とは異なる意見や価値を尊重することができる(91.8%)」や「相手の意見を丁寧に聞くことができる(91.8%)」で高い数値が出た。探究活動の中で他者の意見に耳を傾けながら異なる意見を尊重するトレーニングをしてきた成果が出たと言える。

数値が70%に到達しなかった主体性や探究性の個別項目を見てみると、「うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む(76.7%)」や「自分にはよいところがある(72.6%)」、「現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる(71.9%)」など目標を超えた項目もあったが、「私は自分自身に満足している(46.6%)」や「目標を設定し、確実に行動することができる(54.8%)」などについては大きな乖離があり、力不足というよりは自分自身への物足りなさが反映されたように見える。

社会性の中でグローバル意識を聞く項目の中でも「地域の課題と世界の課題は関連していると思う(80.1%)」については非常に高く、県内他地域との比較でも+13%以上の差が出たことは（とくに本類型における）成果のひとつと言える。

「生徒の行動実績」については、すべての項目で78%以上となることを目指していたが、すべての項目で上回ることができなかった。とくに探究性については数値が低く出ており、中でも「公式やきまりを習う時、その根拠を自分で考えたり調べたりした(62.3%)」と課題を残した。その一方で、「先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした(84.2%)」や「授業でわからないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた(82.9%)」となっており、他者と関わりながら探究性を深めていくことができる一方で、文献やデータを調査分析したり、問いや仮説を立ててじっくり（一人で）向き合う力に課題があることが明らかになった。

Portfolio of sustainable education and community

高校魅力化推進システム、環境部新卒一括採用

SDG 達成に向けた取組

SDG 3 健康と長寿

SDG 3 健康と長寿	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	3.10
達成状況	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成	達成

(注)

達成状況は「達成」「達成中」「未達成」の3段階で評価している。

Summary 総括

2023年度実績



2023年度実績は、SDG 3の達成に向けた取組が完了した。

2024年度目標



2024年度目標は、SDG 3の達成に向けた取組が完了した。

2025年度目標



2025年度目標は、SDG 3の達成に向けた取組が完了した。

2026年度目標



2026年度目標は、SDG 3の達成に向けた取組が完了した。

How to read 読み方

このポートフォリオは、以下の5つの観点から、各大学のSDG達成に向けた取組状況を評価しています。

- ① 計画性: SDG達成に向けた取組が明確に計画されているかどうかを評価します。
- ② 実行性: SDG達成に向けた取組が実際に実施されているかどうかを評価します。
- ③ 効果性: SDG達成に向けた取組が、SDG達成に貢献しているかどうかを評価します。
- ④ 持続性: SDG達成に向けた取組が、持続的に実施されているかどうかを評価します。
- ⑤ 評価性: SDG達成に向けた取組の進捗状況を評価します。

結果は以下の通りです。各大学のSDG達成に向けた取組状況を評価しています。

(注) ①～⑤の評価は、SDG達成に向けた取組の計画性、実行性、効果性、持続性、評価性の観点から評価しています。

① 計画性: SDG達成に向けた取組が明確に計画されているかどうかを評価します。

② 実行性: SDG達成に向けた取組が実際に実施されているかどうかを評価します。

③ 効果性: SDG達成に向けた取組が、SDG達成に貢献しているかどうかを評価します。

④ 持続性: SDG達成に向けた取組が、持続的に実施されているかどうかを評価します。

⑤ 評価性: SDG達成に向けた取組の進捗状況を評価します。

2023年度実績



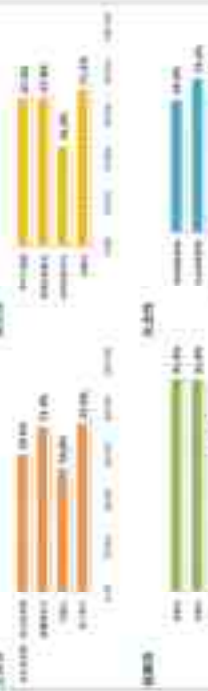
2023年度実績は、SDG 3の達成に向けた取組が完了した。

2024年度目標



2024年度目標は、SDG 3の達成に向けた取組が完了した。

2025年度目標



2025年度目標は、SDG 3の達成に向けた取組が完了した。

2026年度目標



2026年度目標は、SDG 3の達成に向けた取組が完了した。

2023年度実績



2023年度実績は、SDG 3の達成に向けた取組が完了した。

2024年度目標



2024年度目標は、SDG 3の達成に向けた取組が完了した。

2025年度目標



2025年度目標は、SDG 3の達成に向けた取組が完了した。

2026年度目標



2026年度目標は、SDG 3の達成に向けた取組が完了した。

Details WEEK 3

① 卒業生別 (明正の在りか) (キヨウカ)

区分	単位	全校			1年生 (2020入学生)			2年生 (2019入学生)			3年生 (2018入学生)		
		人数	割合 (%)	増減	人数	割合 (%)	増減	人数	割合 (%)	増減	人数	割合 (%)	増減
① 卒業生別 (明正の在りか) (キヨウカ)	全卒業生	100.0%			100.0%			100.0%			100.0%		
	在籍中	74.2%	-5.27	11.18	74.2%	-14.23	13.13	74.1%	7.44	31.7%	74.1%	-0.53	26.6%
	退学	25.8%	3.37	25.81	25.8%	17.20	8.77	25.9%	12.48	20.6%	25.7%	2.49	27.0%
	退学中	0.0%			0.0%			0.0%			0.0%		
	卒業	81.7%	-2.54	8.11	81.7%	-8.83	3.21	84.3%	-3.89	18.7%	82.3%	-4.89	14.7%
	卒業中	0.7%	-0.18	7.31	0.7%	-1.79	5.72	0.7%	-2.18	12.2%	0.7%	-3.32	14.0%
	卒業見込み	0.7%	-1.31	1.48	0.7%	-1.50	2.19	0.6%	-11.08	14.6%	0.9%	9.11	19.0%
	卒業見込み中	0.0%			0.0%			0.0%			0.0%		
	卒業見込み中	0.0%	-4.33	16.17	0.0%	-12.56	4.07	0.0%	5.52	29.3%	0.0%	-13.26	34.0%
	卒業見込み中	0.0%	-8.07	8.68	0.0%	-14.88	-3.12	0.0%	-7.68	16.6%	0.0%	-2.72	26.9%
	卒業見込み中	0.0%	-2.92	3.97	0.0%	-14.28	-1.68	0.0%	-13.28	19.3%	0.0%	3.39	24.2%
	卒業見込み中	0.0%	2.88	3.77	0.0%	8.89	6.20	0.0%	1.88	24.1%	0.0%	2.44	21.7%
卒業見込み中	0.0%	-3.81	8.97	0.0%	-11.31	6.59	0.0%	3.83	24.8%	0.0%	8.11	34.0%	
卒業見込み中	0.0%	13.28	6.62	0.0%	16.67	8.88	0.0%	11.68	19.3%	0.0%	-12.27	18.0%	
卒業見込み中	0.0%	1.28	23.42	0.0%	-14.48	10.40	0.0%	10.87	23.2%	0.0%	8.42	24.8%	
卒業見込み中	0.0%	-1.32	26.29	0.0%	-12.48	14.52	0.0%	9.89	22.0%	0.0%	-8.15	18.8%	
卒業見込み中	0.0%	-2.11	26.94	0.0%	-13.08	13.52	0.0%	15.16	21.8%	0.0%	-3.33	15.7%	
卒業見込み中	0.0%	7.28	13.64	0.0%	-14.28	-1.97	0.0%	3.16	11.7%	0.0%	-11.82	29.3%	

3. 香港的前三個「新興、潛力」市場(按地區)

地區	本區		1. 區 (DIVERSITY)		2. 區 (DIVERSITY)		3. 區 (DIVERSITY)	
	增長率 (%)	絕對值 (Point)	增長率 (%)	絕對值 (Point)	增長率 (%)	絕對值 (Point)	增長率 (%)	絕對值 (Point)
香港	66.8%	-1.24	89.3%	-0.06	67.4%	-0.71	88.4%	-0.84
澳門	70.4%	-2.24	54.3%	1.07	58.7%	0.22	82.7%	1.28
新加坡	73.8%	-0.37	71.4%	-4.79	78.7%	0.10	70.7%	2.27
上海	86.8%	-4.23	77.5%	-5.36	61.9%	1.00	61.7%	7.55
北京	71.9%	2.33	64.2%	-14.20	63.7%	2.11	70.2%	12.00
廣州	71.8%	3.32	64.2%	14.20	65.7%	5.10	72.7%	15.00
深圳	83.8%	-4.00	65.2%	-7.11	53.3%	-4.00	64.8%	15.00
天津	74.3%	-4.40	66.2%	-10.01	53.3%	-10.00	61.8%	12.00
重慶	63.7%	-1.51	62.2%	-3.14	61.3%	1.14	66.3%	13.50
成都	72.8%	1.94	72.2%	-3.66	78.4%	-4.66	72.2%	3.84
西安	76.7%	-2.74	85.4%	-3.06	76.7%	-6.28	72.2%	-4.80
武漢	77.2%	3.20	84.2%	-2.14	72.7%	0.60	76.2%	3.20
長沙	78.8%	1.48	77.8%	-6.62	76.7%	-3.78	76.7%	2.31
昆明	81.8%	-1.58	81.1%	-0.23	81.0%	-0.26	82.7%	0.80
西安	81.8%	-0.58	81.1%	-0.23	81.0%	-0.26	81.8%	0.80
太原	81.8%	-1.28	81.1%	-1.74	80.7%	-2.18	81.0%	11.00
杭州	81.8%	3.28	84.4%	1.74	80.7%	-2.14	86.4%	11.00
南京	82.8%	-0.27	86.2%	-0.64	82.8%	-0.50	81.7%	8.37
鄭州	82.8%	-0.64	86.1%	-0.60	82.8%	-0.78	82.8%	12.34
成都	82.7%	-10.11	86.4%	-15.46	88.1%	1.27	82.8%	1.26
西安	88.2%	-6.21	83.6%	-11.21	83.6%	-20.40	83.6%	2.71
武漢	86.3%	-6.51	83.6%	-11.31	83.6%	-20.40	83.6%	2.71
長沙	83.3%	-0.17	86.0%	-4.55	86.7%	0.77	86.7%	7.81
昆明	83.4%	7.49	86.7%	-11.51	71.8%	-0.68	71.4%	7.86
西安	83.4%	-9.31	86.0%	-17.90	86.5%	3.01	86.8%	10.03
太原	83.4%	-6.44	86.1%	-12.00	81.7%	-4.81	81.7%	7.66
杭州	83.4%	-4.44	86.1%	-12.11	73.5%	-4.18	84.6%	11.30
南京	83.4%	-8.27	86.0%	-14.28	83.8%	-2.80	82.8%	22.80
鄭州	73.6%	-3.24	84.2%	-18.03	76.7%	-4.28	76.7%	38.31
成都	83.4%	-1.81	83.8%	-16.13	82.8%	0.89	82.8%	12.72
西安	85.8%	-4.51	85.7%	-14.29	84.2%	-0.81	84.8%	9.57
武漢	85.8%	-5.11	85.7%	-14.29	84.2%	-0.81	84.8%	9.57
長沙	71.2%	0.12	88.0%	2.88	70.1%	12.40	88.0%	7.86
昆明	71.2%	-5.12	88.0%	2.88	70.1%	12.40	88.0%	7.86
西安	88.4%	4.65	88.3%	-3.35	72.6%	1.16	84.8%	5.89
太原	82.4%	3.27	81.2%	7.14	88.4%	0.71	83.2%	3.74
杭州	88.6%	3.08	84.0%	4.37	83.6%	13.31	83.6%	1.11
南京	88.6%	3.46	84.0%	-11.00	76.7%	-4.28	84.8%	14.44
鄭州	73.2%	4.37	83.6%	-13.60	76.7%	-4.28	82.8%	13.47
成都	78.2%	4.86	77.8%	-3.79	83.2%	3.37	73.2%	13.46
昆明	80.2%	3.11	85.4%	-11.11	85.7%	-6.20	85.7%	11.99
西安	80.2%	8.52	86.5%	2.28	81.4%	3.85	82.8%	12.83
太原	80.7%	7.64	87.2%	8.23	86.7%	3.29	87.2%	8.73
杭州	88.4%	3.67	83.8%	7.78	73.8%	1.01	85.7%	2.14
南京	88.4%	8.52	86.0%	-4.60	86.3%	3.00	84.8%	4.84
鄭州	79.6%	3.75	85.2%	-4.31	86.7%	2.71	81.7%	9.49
成都	88.2%	3.34	86.2%	11.60	86.8%	5.21	85.7%	1.88
西安	88.2%	-4.40	88.8%	-2.64	70.1%	-4.50	82.7%	4.20
長沙	86.6%	3.03	86.1%	-10.12	82.7%	-4.13	83.5%	11.70
昆明	88.3%	-6.41	71.0%	6.78	83.8%	3.10	82.8%	0.83

② 生活の心づくし (調剤・薬力の発展)

事業	1. 売上 (2020年度)		2. 営業 (2020年度)		3. 利益 (2020年度)	
	売上高 (億円)	増減率 (%)	売上高 (億円)	増減率 (%)	営業利益 (億円)	増減率 (%)
① 調剤・医薬品	76.4%	▲0.3%	▲4.57	▲1.0%	▲4.70	▲0.1%
② 調剤・医薬品	82.0%	▲3.8%	▲11.71	▲1.3%	▲1.83	▲18.2%
③ 調剤・医薬品	68.0%	▲0.3%	▲3.38	▲0.1%	▲1.42	▲23.2%
④ 調剤・医薬品	77.0%	▲1.1%	▲3.27	▲0.1%	▲1.23	▲31.4%
⑤ 調剤・医薬品	73.0%	▲3.7%	▲15.48	▲4.1%	▲1.53	▲31.2%
⑥ 調剤・医薬品	69.2%	▲3.2%	▲1.54	▲0.1%	▲2.23	▲1.8%
⑦ 調剤・医薬品	72.0%	▲3.3%	▲3.68	▲0.8%	▲1.42	▲37.2%
⑧ 調剤・医薬品	63.2%	▲3.2%	▲14.20	▲12.2%	▲33.24	▲66.2%
⑨ 調剤・医薬品	68.2%	▲1.4%	▲28.17	▲2.0%	▲8.78	▲15.5%
⑩ 調剤・医薬品	61.0%	▲2.1%	▲18.67	▲1.8%	▲18.79	▲11.4%
⑪ 調剤・医薬品	60.2%	▲14.2%	▲22.17	▲13.6%	▲3.78	▲11.2%
⑫ 調剤・医薬品	64.2%	▲3.8%	▲15.48	▲1.5%	▲1.81	▲18.8%

③ 統合的な生活の質の向上

事業	1. 売上 (2020年度)		2. 営業 (2020年度)		3. 利益 (2020年度)	
	売上高 (億円)	増減率 (%)	売上高 (億円)	増減率 (%)	営業利益 (億円)	増減率 (%)
① 統合的な生活の質の向上	58.2%	▲1.3%	▲1.10	-	▲2.74	-
② 統合的な生活の質の向上	69.4%	▲4.2%	▲1.18	-	▲4.32	-

④ 2020 年新規 (バイオ・IT)

事業	1. 売上 (2020年度)		2. 営業 (2020年度)		3. 利益 (2020年度)	
	売上高 (億円)	増減率 (%)	売上高 (億円)	増減率 (%)	営業利益 (億円)	増減率 (%)
① 2020 年新規 (バイオ・IT)	53.5%	▲	▲1.54	-	▲4.2%	-
② 2020 年新規 (バイオ・IT)	50.0%	▲	▲4.10	-	▲46.0%	-
③ 2020 年新規 (バイオ・IT)	64.5%	▲	▲1.38	-	▲48.3%	-

資料

1 運営指導委員会

第1回 運営指導委員会

日時： 2020年9月16日（水） 15：30～17：00（オンライン）

次第： 1. 開会行事

（1）隠岐島前高等学校校長挨拶

（2）事務連絡（本日の予定等）

2. 議事・協議

隠岐島前高等学校事業説明

（1）令和2年度研究開発の概要

（2）令和2年度研究計画

（3）令和2年度実施状況

（4）運営体制等

（5）その他

3. 閉会行事

第2回 運営指導委員会

日時： 2021年3月15日（月） 13：30～15：00

次第： 1. 開会行事

（1）隠岐島前高等学校校長挨拶

（2）事務連絡（本日の予定等）

2. 議事・協議

隠岐島前高等学校事業説明

（1）令和2年度研究開発の概要

（2）令和2年度研究計画

（3）令和2年度実施状況

（4）運営体制等

（5）その他

3. 閉会行事

2 海外研修代替研修での英語プレゼンテーション資料

生徒発表スライド

■

スライドを掲載

15スライド（昨年同様）を1ページに収めていただくと、全部で37ページになると思います。